

中心市街地における目抜き通りのモール化による活性化効果の検証と環境整備の在り方  
—大分市中央通りにおける取り組みを通して—

正会員○渡邊 智子\*<sup>1</sup> 同 佐藤誠治\*<sup>2</sup> 同 姫野由香\*<sup>3</sup>

7. 都市計画—3. 市街地変容と都市・地域の再生 都市計画  
中心市街地, 社会実験, 休憩空間, フルモール, アンケート

1 研究の背景と目的

かつて、中心市街地は商業、文化、情報の中心としてその都市の活気を表してきた。しかし、近年の急激なモータリゼーションの進展等、様々な要因により、郊外への居住人口の偏りがみられる等、中心市街地は全国的にも衰退の傾向を示している。このようななか、各地域では中心市街地を活性化させる様々な試みがみられる。大分県大分市においても、今後の中心市街地活性化に寄与する試みの一つとして、中心市街地の目抜き通りである県道大分港線（中央通り）のモール化を目指す取り組みがなされている。

そこで、本研究では、現在の中央通り来街者の現状を街路空間調査やアンケート調査により明らかにする。来街者の意識と要素の配置関係を分析することにより、今後の中央通りのモール化に向けての課題と、中央通りの在り方を検討する際に有益な知見を導出することを目的とする。

本研究における大分市中心市街地は、大分駅北口から直線約400mの6車線大通り（中央通り）を中心とし、南西の国道10号線と北側の国道197号線、東側の遊歩公園通りに囲まれたエリアとする（図1参照）。

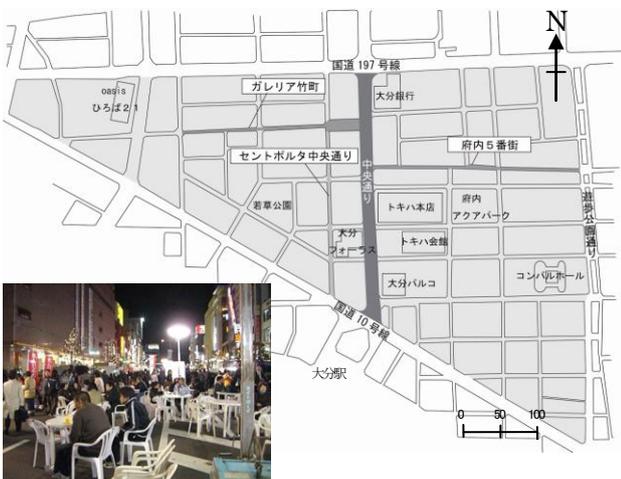


図1 大分市における中心市街地周辺図と社会実験の様子

2 来街者の空間評価と利用状況

2-1 アンケート調査の概要

社会実験日（表1）において、中心市街地への来街者に対し、アンケート調査（インタビュー形式）を行った。また、通常日と社会実験日を比較するために、表1の要領で、通常日にも調査を行っている。尚、調査地点を図2に示す。

表1 調査概要

	通常日	実験日
実施日	平成19年11月21日(水)	平成19年11月22日(木)
調査実施時間(予定時間)	17:00~21:00	18:50~21:00(21:40)
実施場所	県道大分港線(中央通り)6車線・約400m(図2参照)	
交通規制時間	交通規制なし	18:50~22:00
交通規制範囲	交通規制なし	中央通りを中心とした約14ha
調査員数	23	24
調査ポイント(ヶ所)	5	5
サンプル数	162	252



図2 社会実験範囲とアンケート調査ポイント

2-2 回答者の属性

通常日の回答者は男性66人、女性96人、実験日の回答者は男性88人、女性164人であった。また、両日共にアンケート対象者の約6割が女性であり、20代であることがわかった（表2）。

表2 性別と年齢

	通常日		実験日	
	男性	女性	男性	女性
20歳未満	21	21	9	34
20代	20	32	25	51
30代	9	11	19	28
40代	7	7	9	7
50代	7	16	10	18
60代	2	5	11	18
70代	0	3	5	8
80代以上	0	1	0	0
合計	66	96	88	164
	162		252	

表3 通常日の訪問先の東西間の関係

	東側街路	西側街路	その他
東側街路	52%	27%	7%
西側街路		24%	3%
その他			19%

(訪問者153人中)

表4 実験日の訪問先の東西間の関係

	東側街路	西側街路	その他
東側街路	33%	37%	15%
西側街路		33%	11%
その他			30%

(訪問者220人中)

### 2-3 アンケート調査による通常日と実験日の比較

表3~4は通常日・実験日における中央通りの東側街路と西側街路の訪問店舗及び商店街の選択率を示したものである。実験日では東のみ、又は西のみの訪問者が共に33%と偏りが無いことがわかり、東西間を行き来した来街者の割合は通常日27%に対して実験日では37%と上昇していることがわかる。これらから、モータリゼーションの社会実験により、東西の往来が増加しているといえる。

また、図3~4に、通常日と実験日の来街者における消費額と滞在時間の比較を示す。これらから、実験実施により消費額において「千円未満」が5%、「使わない」が7%減少し、「千円以上~1万円未満」が大幅に増加していることがわかる。

また、図4より、「15分~1時間未満」の減少、「1時間~4時間未満」の増加がみられ、4時間以上は大きな変化がみられないことから、実験実施が消費単価の上昇と滞在時間の延長に影響を与えたと考えられる。

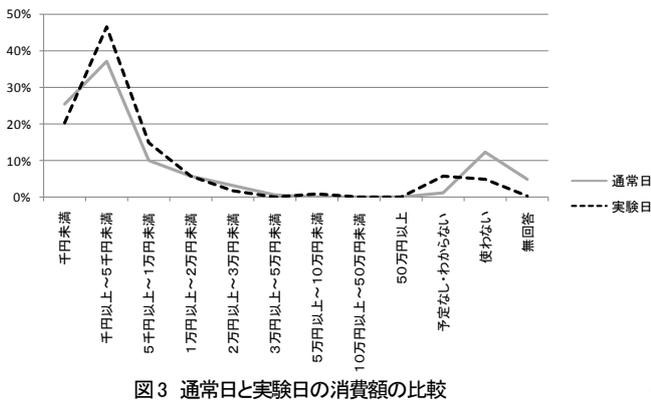


図3 通常日と実験日の消費額の比較

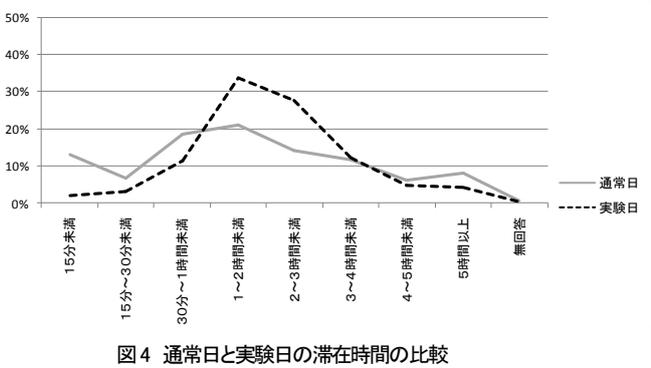


図4 通常日と実験日の滞在時間の比較

## 3 来街者による中央通り全体の評価

### 3-1 社会実験における中央通りの評価

図5は、2007年の社会実験において、来街者が中心市街地を13項目について普段と比較評価した結果

を年代別に示したものである。図5から、「今後実施して欲しい」(1.38)、「賑やか」(1.20)、「雰囲気」(1.16)の順に高い評価を得ていることがわかる。これは、2006年に同様の項目で調査したデータと比較すると(図6)、上位3位の項目は同じ項目があがっていることがわかる。また、最も評価が低いのは「落ちつく」(0.06)であり、次に「休憩所の量」(0.13)、「狭さ」(0.35)となっていることがわかる。

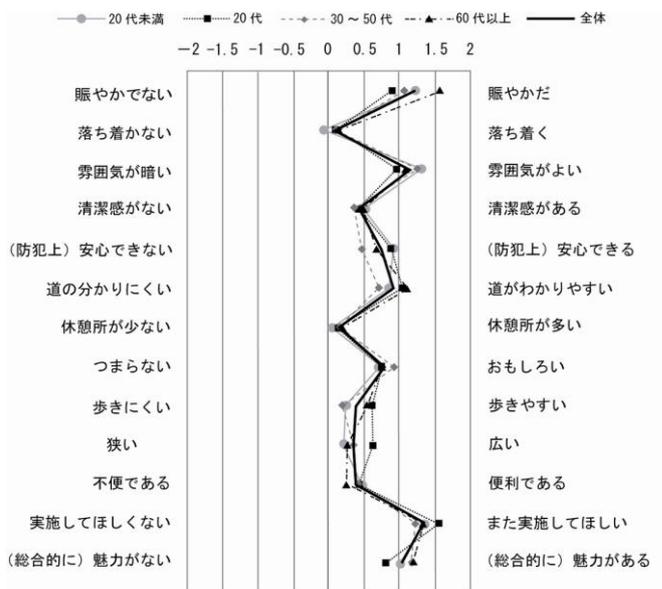


図5 普段と比較した中心市街地の評価(2007)

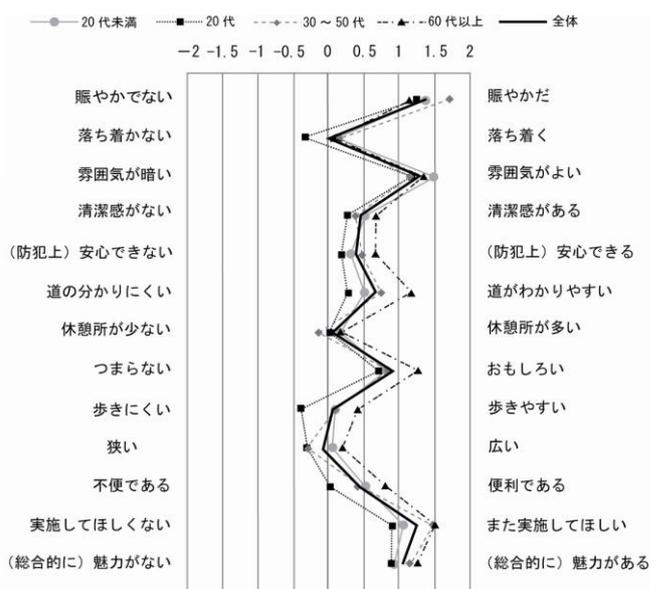


図6 普段と比較した中心市街地の評価(2006)

### 3-2 通常日における来街者の普段の休憩空間

表5~6は、中心市街地を来街した際に、休憩したいと思うことがあるかを尋ねたものである。表5より、

来街者の67%が「休憩したい」と感じていることがわかる。また表6より、この67%のうち、「有料休憩所」を選択する割合が61%であり(全体の41%)、「無料休憩所」で休憩をとる割合が36%(全体の25%)である。これらから半数近い来街者が有料休憩所で休憩していることがわかった。

表5 休憩したいと思うことがあるかどうか

	サンプル数	割合
ある	109	67%
ない	47	29%
無回答	6	4%
合計	162	100%

表6 中心市街地での休憩場所

	サンプル数	割合
有料休憩所	66	61%
無料屋内休憩所	9	8%
無料屋外休憩所	31	28%
休憩をとりたいがとらない	2	2%
無回答・無効	1	1%
合計	109	100%

### 3-3 中央通りの休憩空間の評価

ここでは、紙面の都合上、3-1において来街者の評価が最も低かった「休憩空間」に関してのみ、中央通りにおける改善策を検討する。

#### 1) 中央通りの休憩の場所選択

図7は、来街者が『休憩したい』・『休憩したくない』と指摘した場所を地図上に示したものである。『休憩したい』空間として指摘された数は街区⑨(22票)が最も多く、次に街区⑪(17票)、街区⑩(6票)の順で多い。休憩空間の選択傾向は東側にみられる。『休憩したくない』空間と指摘された空間は『休憩したい』とほぼ同じ位置に多いことがわかる(街区⑨12票、街区⑪5票)が、街区⑤の「スピズ前」(2票)、「てったこ前」(3票)は『休憩したくない』と指摘される数が『休憩したい』を上回っていることがわかる。

#### 2) 来街者の評価と空間構成要素の関係

現在の中央通りにおける歩道空間の空間構成要素の調査を行い、空間構成要素と来

街者の休憩空間評価との関係性を探った。調査では、現在の中央通りの空間構成要素(表7参照)を地図上にプロットし、街区ごとにカウントを行った。この結果、要素は西側に多いことがわかる(西側187、東側155)。

また、図7にみられる『休憩したい』傾向が強い場所(街区⑨、街区⑪)と、『休憩したくない』場所(街区⑤)を比較すると、ベンチの数は街区⑤が最も多い(13票)にも関わらず、休憩したくない傾向が表れている。このことから、ベンチなどの休憩要素が多ければ休憩したいと指摘されるとは限らないことがわかる。その他にも、「樹木」(7票)、「植栽柵」(7票)、「駐輪場」(5票)の数や要素の合計(45票)も、街区⑤は最も多いことがわかる。これらから、休憩空間として選択されるには、適切な要素の数があるのではないかとということが推察された。

#### 3) 休憩したい・したくない空間の特徴

図7の評価において、なぜその場所で『休憩したい』・『休憩したくない』と思ったかを尋ね、その理由をKJ法により詳細に分析した。その結果を図8~9

表7 中央通りにおける歩行空間の構成要素

	街区	東						合計	西					合計
		⑪	⑩	⑨	⑧	⑦	⑥		⑤	④	③	②	①	
交通機関	バス停	0	1	2	1	0	2	6	2	2	0	2	1	7
	バス停降り場	2	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	1	
	タクシー乗り場	0	0	0	0	1	0	1	1	0	2	1	4	
	駐輪場	0	0	0	0	2	0	2	5	2	5	3	18	
機能	違法駐輪	0	2	3	0	2	1	8	0	3	5	2	13	
	街灯	6	3	3	1	5	3	21	4	3	5	4	19	
	信号機	1	1	2	0	2	0	6	1	0	0	1	4	
	スピーカー	1	0	2	0	2	0	5	0	0	0	0	0	
	ごみ箱	0	1	1	0	0	1	3	1	1	0	1	4	
	ブランター	0	0	2	0	0	1	3	1	2	0	3	8	
緑	樹木	4	5	4	2	6	3	24	7	4	6	2	24	
	植栽柵	5	3	3	3	7	4	25	7	5	6	7	32	
	ベンチ	5	7	2	1	4	5	24	13	8	4	7	35	
休憩	水飲み場	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	1	2	
	指定喫煙所	1	0	1	0	1	1	4	1	0	1	1	4	
	案内板	1	2	0	0	1	2	6	0	0	0	1	3	
情報	ポスト	0	1	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	
	電話ボックス	2	1	3	2	1	1	10	1	1	1	0	6	
	モニュメント・像	1	0	0	1	0	0	2	1	0	0	1	3	
アート	1	0	0	1	0	0	2	1	0	0	1	3		
合計		29	27	28	12	35	24	155	45	33	35	37	187	

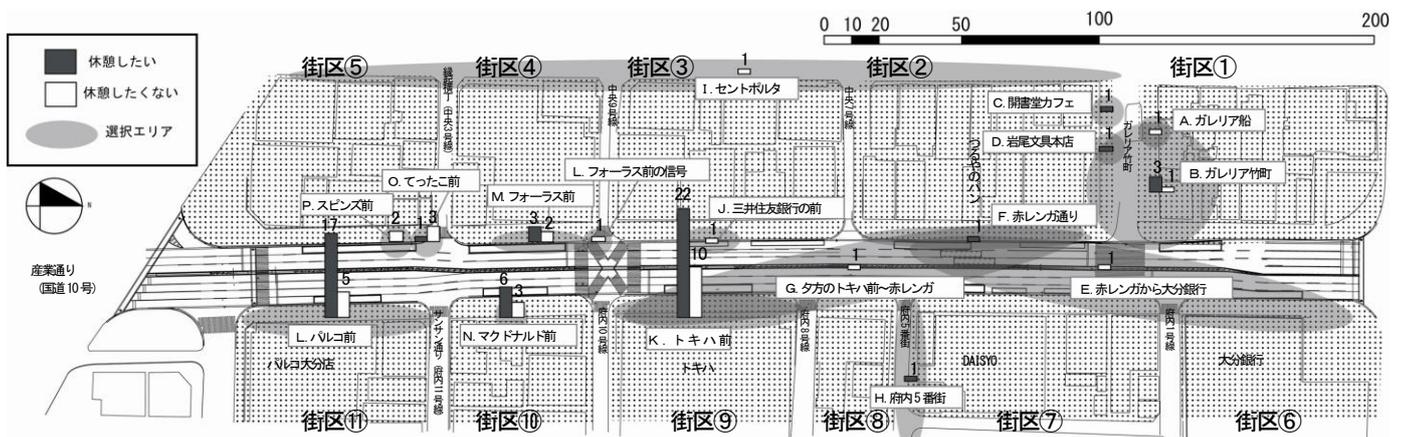


図7 中央通りにおける休憩空間に関する場所の選択

